

<今回>332回目 2023年8月7(月)14時~17時 601会議室

読書は10冊目「失われた九州王朝」再読朝日文庫 p467、第5章九州王朝の領域と消滅 より

<前回>331回目(23-6-26)出席者8名

資料1) (~~2-3-1~~) 前回(23-6-26)のまとめ(清水)

2) 回覧、赤湊神社の縁起(服部氏金曜 web の紹介)

A 報告 高山氏が元気な姿を見せてくれた。清水の白内障の手術が7月に組み込まれたので、7月2回の読書会は中止とする。次回は8月7日(月曜日)から行いたい。

B 資料2 金曜 web に関西の服部氏が豊岡に近い、赤湊神社縁起の中の常色元年年号の存在を紹介してくれた。資料は触れれば破損しそうで、いかにも古いことを示す。服部氏以下5名の方が宮司を訪ねて、九州年号の1つ常色年号の存在を確認した。京都教育委員会の読み下し文を利用して内容のしょうかい

資料3 融天師彗星歌の中の日本兵国に帰ると前回読んだが、大墨氏が安藤会長の自宅の書籍を調べに行つたときに見つけた物、安藤氏はこの日本兵は必ずしも当時6, 7世紀の呼称ではなく、日本の万葉集の例のように漢文と郷歌との習合などを想定すべき段階があることを例示している。~~が~~

資料4 今読んでいる本の「失われた九州王朝」の264p付近に倭と倭は同じか違うかが論じられている。通説は同じものとみなして、論を立てているが、古田氏は夷蛮伝の倭は過去にさかのぼって倭を倭と表記しているが、隋書の煬帝本記の倭国は別(後年近畿日本国となる)の倭種とみなしていると論じている。古田氏は安易に日本書紀と隋書を結び付けてはいけないと戒めている。(千歳竜彦氏の論文は日本書紀の年次を妄信している。遣隋使と云わない理由をもっと考えるべきだ。)

C 読書 p456 珠玉の説話 から

- (1) 三国史記の伝える堤上説話を全文読む。朴提上の系譜を略記。実聖王元年(壬寅402)倭国と講和、人質として末斯欣を出す。また11年(壬子412)高句麗にも兄、ト好を人質の要求に応じて出す。
- (2) 実聖王の子、長兄納祇王(417~57)王位に就く。人質となって長い弟たちの返還を思い立つ。3人の賢人に相談したら款良の州干提上を剛勇、智謀の士として推薦。史上に登場。早速高句麗に入る。長寿王と面談して、解放に成功する。
- (3) 倭国にも行けと命を受け、妻子とも合わずに、倭王(讚か)を説得するのは困難とみて、国の謀反人を装って倭に渡る。倭王は実の謀反人か末斯欣と共に将として海中の出島に至る。末斯欣は一緒に脱走することを望んだが、2人では無理と半日時間稼ぎして新羅に還らせた。倭はそれを知って追いかけさせたが見失った。この倭の中心は博多湾の九州倭国(近畿ではないと半島側学者も述べている。)である。

~~27~~7月10日(月) 14時から17時 602会議室は都合により中止。

7月24日(月) 14時から17時 602会議室